

佐賀小学校

夢や志をもち、やさしく、たくましく生きる児童の育成

校長 平林 也奈

◆はじめに

今年度は、児童数81名、学級数8（通常学級6、特別支援学級2）、教職員数14名でスタートしました。

学校の教育目標は、「夢や志をもち、やさしく、たくましく生きる児童の育成」です。そこに迫るために、「自立（たくましく生きる）」、「共生（ともに生きる）」、「貢献（人の役に立つ）」をキーワードに教育活動を展開しています。

また、年度初めには児童や保護者の皆さんに佐賀小学校をこんな学校にしたいと、始業式やPTTA総会、学校通信などで投げかけ新年度をスタートしました。

「つながり」

みんなが みんなに

やさしい佐賀小

つながりをテーマにした取組の一端を紹介します。

◆保育所とのつながり

佐賀中校区は長年、保小中連携会議を中心に目標を

設定し、取組を進めていいます。また、今年から2年間、県教育委員会の指定を受け、「保小連携・接続推進事業」の研究を進めることになりました。

活動の1つとして、6月10日（月）には、「カレーパーティー」で交流しようを行いました。保育園児との交流の中で、お姉ちゃん、お兄ちゃんらしい姿がたくさん見られ、1年生の成長を感じることができました。また、6月26日（水）には保

幼の先生や県教育委員会など30人を超える参観者が見守る中、研究授業を行いました。普段通りとはいかず緊張した姿も見られました。聞いたたり伝えたりのコツについて、個人やグループ、そして、全体で共有しながら、相手を思いやる言葉かけや励まし、プラスの評価が

たくさん見られ、みんなが嬉しい気持ちになった。1日でした。



◆中学校とのつながり

佐賀中学校の生徒たちも小学生をサポートしてくれています。

中学生が1学期に2度、小学生が興味を持って聞くことができる本を選び、朝の読み聞かせに来てくれました。また、夏休みに入ると、加力学習にも来てくれて、丸付けの手伝いだけでなく、わからないところを丁寧に教えてくれました。小学生は中学生の姿に憧れを持ったことでしょう。



◆保護者とのつながり

本校の強みは、保護者が児童や学校をサポートしてくれることです。学校行事の田植えや稲刈りはもちろん、プール監視などさまざま

まな場面で力を貸してくれ

ます。佐賀小の一大イベント「夏祭り」では、地域の方も踊りの指導に毎年来てくれています。当日は、体育館が熱気にあふれ、児童たちは大喜び。みんなが楽しいひと時を過ごすことができました。たくさんのおかげで「佐賀小夏祭り」が続いている

ことを実感した。保護者のパワ―や佐賀のあたたかさを感じました。



◆佐賀地区3校とのつながり

佐賀地区の拳ノ川小学校、伊与喜小学校とはいろいろな形で交流をしています。特に高学年では宿泊をと

なつての交流があり、6月の宿泊学習、9月の修学旅行と、大きな行事を3校の児童たちで作り上げていきます。宿泊学習では、「①きまりを守って楽しく活動、②友だちとの交流、③自主

的に活動」をめあてに実施し、児童たちのたくさん笑顔が見られる一泊二日となりました。9月には修学旅行があり、これら学習を通して、3校の子どもたちのさらなる成長を期待しています。

◆佐賀小児童のつながり

7月に、縦割り班活動「スベシャルタイム」を行いました。「自主的な活動を通して、自治力を高める。そして、団結力を高める」ことを目的に、6年生を中心に活動内容を決め、それに向けての計画・準備を進め、実施しました。活動内容を班の話し合いで決めたり、段取りしたりと大変だったとは思いますが、やり切ってくれました。高学年の大きな成長・成果が見られた取組となりました。「2学期のチャレンジタイムが楽しみ」という声も多く聞こえてきました。

たくさんさんの「つながり」を通して、みんなの命や人権が守られ、「みんながみんなにやさしい佐賀小・家庭・地域」をみんなで創りあげていきたいと考えています。

大方中学校

さまざまな活動を通して
成長する生徒たち

校長 浜口 和彦

◆はじめに

大方中学校は今年度150名の生徒が在籍しています。

教育目標を「学びあい、つながり、未来を拓く」とし、すべての生徒に未来に生きるために必要な力を身につけさせたいと考えています。

今年度の生徒会のスローガンは、「Change! We are challengers!」です。自分たちが成長するために、そして学校を良くするためにいろいろなことに挑戦し、変わっていかうという思いが込められたものなのです。そんな生徒たちの活動を紹介します。

◆笑顔いっぱいのお祭り

9月15日(日)、体育祭が行われました。当日は、朝からたくさんの方の保護者や家族、地域の方に応援に来ていただきました。本校の体育祭は、体育祭実行委員会や、応援団、ダンス委員会、組体委員、団旗の係など、生徒の力で創りあげるとい



う伝統があります。今年も3年生を中心に、夏休みから話し合いや準備を進め、今年の大中学生の良さを活かした体育祭を行うことができました。応援合戦では、

新しいパフォーマンスを取り入れようと工夫が見られ、色全体でまとまりのある応援合戦でした。男子の組体操や女子のダンスも一体感があり、すごくいい表情で楽しそうに演技していました。団体競技もスピード感があり、学級・学年としてのまとまりを感じることができました。

◆10年目を迎えた元気会
本校には「元気会」というボランティアを中心にした活動する団体があります。

「自分たちの学校や地域のために、何かできることはないだろうか」という思いで活動し、今年で10年目になります。

今年度もメンバーを募集し、56名が活動しています。これまで、はだしマラソンやいごっそうアコースロン、まるごと産業祭などの町内の行事での活動だけでなく、校内の美化活動なども行っています。これらの活動を通して、人のために活動することの大切さや笑顔の大切さ、感謝されることの喜びなどを学ぶことができます。



◆防災委員会を中心に
将来の町の担い手として、防災についての知識や技能を身につけることも大方中の重要な役割です。今年はこの取組のうえに、生徒たちのアイデアを取り

入れ生徒主体の活動を取り入れたいと考え、生徒の防災委員会を立ち上げました。避難訓練で活動したり、地域の防災活動に参加しながら、その様子を防災通信にまとめたりしています。(防災通信は本校のホームページからご覧いただけます。)

8月1日(木)・2日(金)に、防災委員会のメンバーを中心に8名の生徒が大方高生と一緒に京都大学を訪問し、地震研究の第一人者である矢守克也教授の研究室や京都大学防災研究所、阿武山地震観測所を見学し最先端の取組を学ぶことができました。防災について学べたというだけでなく、中学生の時期に京都大学を訪問できたということは、生徒たちにとっても貴重な経験になったと思います。



また、10月中旬には、2・3年生が防災学習で学んだことを町に提言する場を持ち、未来の黒潮町について考えていきます。

◆AMDAとの交流

8月31日(土)から2日間、岡山県からボランティア活動に取り組んでいるAMDAの中高生が町を訪れました。1日目は、本校の防災委員会や佐賀中・大方高校の生徒と防災の取組について交流しました。

2日目には、町の総合防災訓練に参加し、本校の1年生や地域の皆さんと一緒に心肺蘇生法の講習を受け、新聞紙を利用したスリッパやキッチンペーパーを利用したマスク作りをしました。また、この日は1年生が地域の方と炊き出し訓練を行い、AMDAの生徒と一緒にカレーを食べ、活動についての聞き取りも行いました。AMDAの生徒は地域の方とも積極的に交流をしていて、意識も高く本校の生徒にとっても良い交流になりました。

また、10月中旬には、2・3年生が防災学習で学んだことを町に提言する場を持ち、未来の黒潮町について考えていきます。

